



待機児童対策と私立保育園の建設状況を調査

子育てするなら玉村町の旗を守る！

委員長 宇津木治宣
 副委員長 三友美恵子
 委員 原 秀夫
 渡辺 俊彦
 浅見 武志

今回は、このメンバーで、待機児童対策と私立保育園の建設状況について調査しました。



来春開園予定の「玉村おひさま保育園」を視察。こは、廊下ではなく多目的スペースとして使用するのだそうです。そのためこんなに広く、しかも壁には扇風機がついています。



園の方針について、園長先生から説明を受けました。園児は冬でもはだしで過ごす、年齢と同じキ口数の距離を歩かせるなど、私立保育園ならではの保育方針はとても興味深いものでした。



待機児童の解消を目指す

町立保育所の待機児童数は、4月の段階において何とか0人をキープしています。しかし、未満児（0歳から2歳）のうちから保育所に預けたいというニーズが高まっていることから、年度の途中になる待機者が出てしまつのが実態です。

町立保育所は、首が据われれば生後4カ月から預けることができます。以前のよう、3歳くらいまでは家庭で見、その後保育所か幼稚園かを選択する人は少なくなっています。

町内の待機児童対策は

待機児童対策として、町は私立保育園への建設費補助金を活用し、初の私立保育園2園が町内にできました。

平成25年4月に開園した「にじきの保育園」（上之手）と、平成26年4月に開園予定の「玉村おひさま保育園」（上福島）です。定員は、2園とも60人となっています。

また、第4保育所の建てかえ工事を実施しています。平成27年4月に開所予定ですが、現在150人の園児を180人にふやして対策を講じているとしています。

まとめ

共働き家庭の増加によって、保育へのニーズが低年齢化し、待機児童が出る原因となっています。私立保育園がこうした状況に迅速に対応していることが、待機児童解消につながります。

視察した「玉村おひさま保育園」は、「はだし保育で屋外での運動や砂場遊びを重視。家庭で保護者が行う保育への支援も行う」としていました。こうしたことが、町立の保育所にとっても切磋琢磨することになり、また競い合つてよい保育をすることにつながり、最終的には玉村町の保育環境全体がさらに充実することになります。今後とも子育てするなら玉村町をしっかりと守っていくことを期待したいと思います。